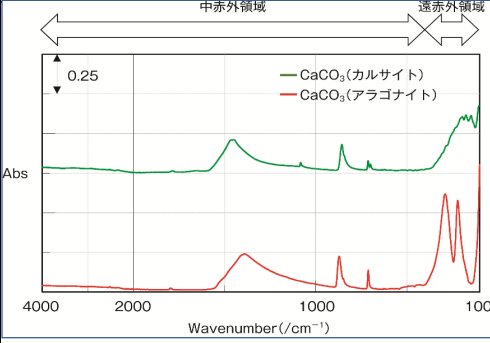
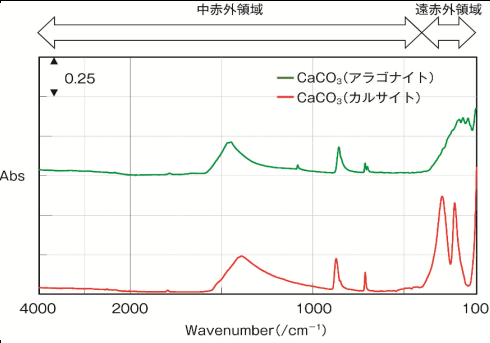


「製剤開発、品質・プロセス管理のための 赤外・ラマンスペクトル測定法」訂正のお知らせ

ご購入いただきました「製剤開発、品質・プロセス管理のための 赤外・ラマンスペクトル測定法」（2019年9月発行）におきまして、以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2022年10月

【正誤表】

刷数	頁数	該当箇所	内容	書籍版 反映刷数	登録日
第1刷	1頁	本文 上から2～3行目	誤 ……にドイツの天文学者ハーシェルが プリズム に…	未	2022.07.21
			正 ……にドイツ 生まれのイギリス の天文学者ハーシェルが すだれ（スリット） に…		
第1刷	1頁	本文 上から4～6行目	誤 ……発見し、 赤外線（Infrared rays） と名付けたことが始まりとされている。その後、 1853年 にフランスの物理学者アンペールによって 赤外線が可視光線と同じ光であることが示され、1900年にドイツの物理学書プランクによって赤外線に対する理論の基礎が確立された。	未	2022.07.21
			正 ……発見し、 熱線（Heat ray） と名付けたことが始まりとされている。その後、 1835年 にフランスの物理学者アンペールが 赤外線（Infrared ray） と名付けた。 1864年にマックスウェルが可視光線も赤外線も同じ電磁波であることを理論的に証明し、1888年にヘルツが実験的に証明した。		
第1刷	136頁	図4.31 結晶構造の異なる 炭酸カルシウムの 赤外吸収スペクトル	誤 	未	2022.10.18
			正 		
第1刷	176頁	本文 下から7行目	誤 ここでは、 長谷川 らが提案した…	未	2022.07.21
			正 ここでは、 尾崎 らが提案した…		
第1刷	184頁	参考文献 3)	誤 3) 長谷川健、尾崎幸洋：ケモメトリックス法の新展開、分析化学、54（1）、1-26（2005）	未	2022.07.21
			正 3) Jian-Hui Jiang, R. James Berry, Heinz W. Siesler, and Yukihiro Ozaki, Anal. Chem. 74, 3555-3565（2002）		

（最終更新日：2022年10月18日）